

「万引行為はすぐに発見されます」

店舗に防止促す音声

県内で万引被害が多発する中、県警は1日、相手に命令せず、より良い選択をするよう促す「ナッジ理論」を活用した音声メッセージで万引を思いとどまらせる実証実験を始めた。スーパーの店内に専用の機器を設置して音声を流し、効果を検証する。県警によると、音声メッセージで万引被害を防ぐ取り組みは全国で初めて。



録音再生機器を設置するロシナンテ福島西店の海老原靖典店長（左）と鈴木特任准教授

県警、全国初の取り組み

実証実験では、店舗の入り口や万引の被害の多い菓子、酒類の陳列棚に録音再生機器を設置。録音再生機器から「万引はお店の経営に大きな影響を及ぼします。場合によっては、商品の値上げや品ぞろえの縮小にもつながりますので、万引はやめましょう」などの音声流れる。メッセージは6種類あり、いずれもナ

ナッジ理論に基づく 主な音声メッセージ

- このお店では、皆様安心してご利用いただけます。万引行為は、皆様にとってもお苦しいことです。万引防止のため、万引行為はすぐに発見されます。（脅威をアピール）
- 万引被害が多発しております。もし万引行為を見かけたら、お気軽にお知らせください。お声かけをお願いします。（協力依頼）
- このお店では、皆様安心してご利用いただけます。万引防止の実験をさせていただきます。（遠慮を促す）

ッジ理論に沿って万引を思いとどまらそう仕向ける内容になっている。同日から11月末まで、い

3店舗と比較するなどして

検証を行い、効果が確認された場合はより規模を広げることも視野に入れる。県警は1日、福島市のスーパー「ロシナンテ福島西店」で実験の様子を公開した。

ナッジ理論活用

実証実験には、ナッジ理論を活用して自転車の施錠率向上に県警と取り組んだ鈴木あい福島大特任准教授の知見を生かした。万引の防止には、商品棚の配置を変えたり、防犯カメラを設置したりするなどの対策が一般的とされるが、音声による対策は、より人手や費用を抑えることができるという。鈴木特任准教授は「全国で初めての取り組みなので、良い結果が得られることを期待したい」と話した。

県内の刑法犯認知件数（今年6月末時点）は4080件で、7割に当たる2858件が窃盗犯。そのうち2割強が万引となっている。場所別では、スーパーなどの商業施設が半数以上を占めている。